

平成21年度東アジアプロジェクト研究報告

○プロジェクト名

東アジアにおける伝統と再生

○研究組織

研究代表者：高木智見

研究分担者：田中誠二、瀬瀬厚、橋本義則、馬彪

○研究の概要と結果

東アジア文化を理解するうえで極めて本質的な問題であり、かつまた複雑な様相を呈する「伝統と再生」について、メンバー各自がそれぞれの専門分野においてその実態と性格を明らかにするための研究を行い、以下に列挙する着実な成果を上げた。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- * 田中誠二、「萩藩後期の山代紙」（『山口大学文学会志』61巻収載予定）
- * 瀬瀬厚、「海軍解体 終戦工作から海上警備隊創設」（『歴史読本』第855巻、128頁～133頁、2010年9月）
- * 瀬瀬厚、「日韓併合100周年を機会に問い直す」（『労働運動研究』第26号、2010年4月、3～12頁）
- * 橋本義則、「日本古代の曲水宴」（韓国政府機関の報告書、出版形態未定）
- * 馬彪、「始皇帝が巡行した足跡を辿って」（『異文化交流研究施設ニューズレター』第11号、p3-5、2010年8月）
- * 馬彪、「龍崗秦簡にみる禁地「闖入」罪と関連律令」（『東洋史苑』第76号、p1-19、2010年9月）
- * 馬彪、「龍崗秦簡における「奴道」「甬道」「馳道」への検討」（『日本秦漢史学会会報』第10号、p151-172、2010年11月）
- * 馬彪、「秦代「禁苑堽（堽）」の空間構造とその由来—龍崗秦簡をめぐる検討—」（『山口大学文学会志』第61巻、2011年1月刊行予定）
- * 馬彪、「城址と墓葬に見える楚王城の非郡県治的性格」（橋本義則編『東アジア比較都城研究』京都大学学術出版会2011年2月、刊行予定）
- * 馬彪、「雲夢楚王城における禁苑と沢官の二重性格」（橋本義則編『東アジア比較都城研究』京都大学学術出版会2011年2月、刊行予定）
- * 馬彪、「古代中国帝王の巡幸と禁苑について」（『アジアの歴史と文化』第15号、2011年3月、刊行予定）
- * 高木智見、「殷周革命」（『白川静の世界』三、平凡社、pp148～170、2010年9月）
- * 高木智見、「修己と治人の間 漢代翕然考」（『名古屋大学東洋史研究報告』35掲載予定）
- * 高木智見、書評「朱淵清『書写歴史』」（中央研究院『中国文哲研究集刊』35期、pp209～218、2009年8月）

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

- * 額額厚、「近代日本の政軍関係」北京大学歴史系（中国・北京市）2010年9月15日
- * 額額厚、「現代日中関係の課題と展望」東北大学（中国・瀋陽市）2010年9月17日
- * 額額厚、「台湾出兵と帝国日本の成立」遼寧師範大学（中国・大連市）2010年9月21日
- * 橋本義則、「日本古代における遷都と廃都」、東アジア比較都城史研究会、2011年1月10日
- * 馬彪、「秦代「關中」の「塞」「關」「津」について—出土史料からの新視点—」近世東アジア比較都城史研究会（第3回）山形大学人文学部 2010年6月27日
- * 高木智見、「古代中国における欲利の克服」第8回日中学術討論会 龍谷大学、2010年8月23日

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

- * 額額厚、『新版 総力戦体制研究 日本陸軍の国家総動員構想』社会評論社（東京）、2010年10月、全270頁
- * 額額厚、『我们的战争责任』人民日報出版社（中国・北京市）、2010年12月、全196頁
- * 額額厚、『쇼와천황과 일본패전 (昭和天皇と日本敗戦)』제이앤씨（韓国・ソウル市）、2010年5月、全248頁
- * 額額厚、『太平洋戦争9 日本降伏』学研、共著、2010年11月（全138頁）
- * 橋本義則、編著、東アジア都城の比較研究、京都大学学術出版会、2011年2月28日、450ページ程予定（現在校正中）

○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

○研究組織

研究代表者：阿部泰記、湯川洋司

研究分担者：坪郷英彦、平野芳信、根ヶ山徹、森野正弘

研究協力者：徳永彩理、平井知代、王秋陽

○研究の概要

伝承文化を見直す観点に立ち、東アジアにおける文化伝承の形態とその価値を明らかにするため、前年度に続いて文学と民俗の方面から具体的な研究を進める。

1. 物語文学の誕生に関する分析を行う—物語文学は先行する説話を吸収しながら完成した。そこで本研究では日本の古代文学がいかなる説話伝承の影響を受けているかについて『源氏物語』を例にして解明する。本年度は平安期の文学作品である『源氏物語』に引用されている音楽に関連する説話について考察するため、古注釈書や楽書、説話集などに収録されている芸能説話を採集し、『源氏物語』への影響を明らかにする。（担当：森野正弘）

2. 近代文学における「話型論」の研究を行う—古典文学の「話型論」を近代文学に適用することにより、広く日本・韓国・中国における文学作品及び映像作品について、その話型（構造）を

比較研究し、話型の発生する要因を分析する。本年度は前年度の成果を踏まえて村上春樹の作品だけに留まらず、より広範囲の作家及び作品（場合によっては、いわゆるサブカルチャー領域やヨーロッパ・アメリカ文化圏を含む）における話型論研究を展開する。（担当：平野芳信）

3. 演劇作品の伝承に関する研究を行う—演劇は時代や地域によって多様な変化を生じてきた。特に『牡丹亭還魂記』は後に数多くの版本が出版されている。そこで各版本間の字句の異同を分析し、脚本の受容史の研究に端緒をつける。本年度は清初の呉呉山三婦の評点本『牡丹亭還魂記』が多数ある『牡丹亭還魂記』のどの版本を底本に用いたのか、そのことがこの評点本にどのような特質を与えているのかについて考察する。（担当：根ヶ山徹）

4. 語り物の時代変容に関する研究を行う—湖北省の語り物「湖北大鼓」が時代に即応するためその前身である「善書」をどのように変革していったかを明らかにする。他の芸能作品についても資料を収集してその変革の様子を明らかにする。著名な語り手である張明智氏の作品を収集して、現代社会に適応するためにテレビ・演劇などのメディアと合体したその活動の概要を把握し、伝統芸能の持つ課題に対する解決策について考察する。同時に芸能の変革に関する資料も収集する。（担当：阿部泰記）

5. 日本と中国における物質文化の比較研究を行う。—祭礼における山車や舟といった象徴的構築物が祭りの中でどのように機能し、意味をもっているかを実証的に明らかにする。昨年度の中国貴州省の祭礼については文献調査等で資料整理を行う。本年度は日本の伝統的祭礼調査を実施し、日本の祭礼山車の機能についてまとめる。これまで民俗学的文化人類学的研究蓄積のある秋田県角館の祭礼「飾山囃子」山車を取り上げる。また、八王子市「八王子祭り」山車について補充調査を行う。（担当：坪郷英彦）

6. 日本における正月の祝いに関する諸儀礼の構造を把握し、比較民俗学的研究の観点を整理する。本年度は日本の正月を祝う行事や祝い方の方法について、これまで収集した資料を整理し、その特色を抽出する。（担当：湯川洋司）

研究の結果

下記の報告会を開催して研究結果を総括した。

日時：2010. 5. 20. 場所：人文学部第1演習室

1. 森野正弘：古代文学における伝承の研究
2. 平野芳信：村上春樹研究—その生涯と作品—
3. 根ヶ山徹：《呉呉山三婦合評牡丹亭還魂記》底本探析
4. 阿部泰記：官勸与民勸之間的話語流動—中国近現代勸善説唱与「聖諭宣講」関係之調査研究
5. 坪郷英彦：角館祭飾山囃子山車の形と役割
6. 湯川洋司：正月の祝い方について

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

* 根ヶ山徹：《呉呉山三婦合評牡丹亭還魂記》底本探析、「中国戯曲芸術国際研討会—2009湯頭祖專題會議」論文匯編、2009年5月、98-120頁

- *根ヶ山徹：《牡丹亭還魂記》中柳夢梅形象、『湯頭祖研究通訊』（中国戯曲学会湯頭祖分会）、2009年第2期（総第9期）、2009年10月、51-59頁
- *坪郷英彦・宮内貴久・工藤芳彰・伊藤真奈美：八王子祭山車はどのように認識されているか、「民具研究」、140号、2009年9月、79-90頁

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

- *根ヶ山徹：《呉山三婦合評牡丹亭還魂記》底本探析、中国戯曲芸術国際研討会-2009湯頭祖專題会議、2009年5月18日、於澳門国際貿易中心
- *阿部泰記：官勸与民勸的話語流動—中国近現代勸善説唱与「宣講聖諭」関係之調査研究、社会変遷与人文書写：文化場域中的話語流動成果発表会論文集（台湾中興大学中国文学系）、2009年10月22日、1-23頁

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

- *森野正弘：「明石一族における箏の琴の相承～小一条家流との相関～」、『王朝文学と音楽』（竹林舎）、2009年12月20日、554～578頁
- *平野芳信「冬のソナタ」ブームの背景—《最初の夫の死ぬ物語》外伝—」木村一信・崔在喆編『韓流百年の日本語文学』（人文書院）2009年10月 276-294頁
- *平野芳信：「村上春樹 人と作品（シリーズ：日本の作家100人）」（勉誠出版）、2011年2月、305頁
- *平野芳信『『1 Q 8 4』論—村上春樹のゆくえ—』、『村上春樹と小説の現在』（和泉書院）、2011年3月、209-217頁
- *湯川洋司・古家信平・安室知編著『日本の民俗13 民俗と民俗学』吉川弘文館 平成21（2009）12月10日、本文262頁、索引48頁（このうち、湯川は「民俗と民俗学」執筆1-12頁、「今、新たに民俗学を起すとしたら」問題提起ほか討論参加14-139頁、「日本民俗学史関連年表」作成202-253頁、全体監修を担当。）

○プロジェクト名

グローバル化下の東アジアの経済発展と諸問題

○研究組織

研究代表者：植村高久・成富敬

研究分担者：立山紘毅・石 龍潭・古賀大介・朝水宗彦

研究協力者：張 文芳・三輪典生・田 問耕・崔 春婷・周 平・Hanny Zurina Binti

○研究の概要と結果

・サブプライム問題を発端とした2008年の金融危機と世界同時不況の下で、アメリカへの輸出に支えられてきた東アジア経済は急激な経済の縮小を経験した。この状況は同時に、これまでのグローバル化の転換点とも考えられ、世界経済は急速な転換と再編の必要に迫られている。

このような転換点において、東アジア諸国がどのような軌跡を辿るかは、今後の世界のあり方をも長期にわたって規定するものとなる可能性もある。そこで、様々な領域から、並行して研究を進め、世界的な転換点の下にある東アジアの実相を確認することは、極めて重要な意義を持つといえる。

・東アジアの転換の鍵となりうる諸領域・諸問題に焦点を絞り、様々な対象地域に対して、各々の研究者の専門領域からアプローチする方法を採り、以下の成果を挙げた。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- * 袁広偉；葛崎偉；成富敬「活用事例 Moodleを用いた中国人学習者向けの日本語4級単語学習システムの構築」『コンピュータ&エデュケーション (Computer&education)』27, CIEC (東京電機大学出版局), 2009.
- * 朝水宗彦「オセアニア教育研究と私—移動する人々に関する比較教育の20年」『オセアニア教育研究 (Journal of Oceanian education studies)』オセアニア教育学会, オセアニア教育研究会, 15, 2009.
- * 張 文芳「中国農村信用社の少額貸付と信用調査」『東アジア研究』山口大学大学院東アジア研究科, 第8号, 2010年3月
- * 周 平「中国における人口流動の実態とその決定要因」『東アジア研究』山口大学大学院東アジア研究科, 第8号, 2010年3月

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

- * Hanny Zurina Binti, "The Impact of Japan's EPA on Automotive Industry in Malaysia, Thailand AND Indonesia", The 3rd International Conference on Southeast Asia 2009 (ICONSEA2009) at University Malaya, Kuala Lumpur (December 2009)

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

- * 植村高久（共著, 丸本卓哉他編『貴州省の持続的発展をめざして』文一総合出版, 2010.
- * 植村高久（共著, 菅原陽心編）『社会主義市場経済の現在』御茶ノ水書房, 2010.
- * ASAMIZU Munehiko and Fred R. SCHUMANN eds., *Global Tourism*, Kumpul, Tokyo, 2010.

○プロジェクト名

東アジアにおける医療供給体制と企業の役割

○研究組織

研究代表者：石田成則

研究分担者：李海峰、中田範夫、城下賢吾

研究協力者：コラボ研究員 王艶莉

○研究の概要と結果

これまで継続してきた研究プロジェクトでは、企業経営および市場の視点から、主に東アジアに進出しているグローバル企業の実態調査に従事し、その経営戦略、組織そして人材育成について研究してきた。昨年度からは、サービス産業とくに東アジア諸国の人口高齢化を睨んで、医療・介護経営に特化して調査している。そして、病院を中心とした医療施設・介護福祉施設経営のあり方と医療供給体制や医療費管理に果たす企業の役割に焦点を絞り、それを理論と実証の観点から分析した。また、従来の実態調査結果を踏まえつつ、こうした産業・事業における問題点を抽出し、その解決のために政策提言を行った。具体的には、これまでに実施したアンケートおよびインタビュー調査を統計的に処理して分析するとともに、優れた経営力を持つ施設については事例研究として取りまとめた。そのうえで、患者や施設利用者へのサービス水準を向上させるために、どのような管理体制や組織を構築すべきか、またどのように人材を養成すべきかについて考察を加え、効果的な病院や施設マネジメントについて提言を行った。とくに、看護婦や介護福祉士の業務に焦点を当て、医療・介護事故を減らしてより高い水準のサービスを提供する方途を解明した。提言では、こうした職種のスキル向上のために、長期に安心して勤務できる体制作りが第一に重要とした。勤続年数の長期化のためには、1) 社内教育・研修体制の充実、2) スキルアップのためのモチベーションの向上、3) リスク情報の共有化、以上の3点が必要となることを指摘した。そして、こうした要因によりサービス水準がどの程度引き上げられるかについて、実証分析を展開し望ましい施策を考案した。

当該プロジェクトメンバーの多くは、日本国内において、医療・福祉施設の実態調査および企業福祉の実態調査経験があり、今後も同様な手法により調査を実施する。医療・福祉施設の経営上・会計上の問題点を実態調査より詳らかにし検討を加えるとともに、企業内の医療福祉にかかる会計・管理組織を把握し、医療・介護の供給体制が企業の人事・財務に及ぼす影響を実態的に検証していく。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- * 中田範夫「病院における経営管理機能についての時点比較－平成18年調査と平成21年調査－」『山口経済学雑誌』58巻4号、2010年3月、1-26頁
- * 中田範夫「病院の経営管理機能についての第5回調査－電子カルテ、目標管理、BSCおよび原価計算を中心として－」『山口経済学雑誌』59巻2号、2010年7月、45-81頁
- * (書評) 中田範夫『ケーススタディ 医療・NPOの経営管理ガイドブック』（ロバートN.アンソニー、デビットW.ヤング著、浅田孝幸・松本有二監訳）『企業会計』2010年8月号
- * 城下賢吾「意見の相違と空売り制約－文献研究－」『山口経済学雑誌』58巻4号、2010年3月、153-170頁
- * 城下賢吾「空売り制約と株価」『山口経済学雑誌』58巻6号、2010年6月、143-155頁
- * 石田成則・王艶莉「中国における合作医療保険の整備」『山口経済学雑誌』58巻4号、2010年3月、27-49頁
- * Shigenori Ishida, Wei Zhang, Haifeng Li & Eric Park "China's Non-governmental

Microcredit Practice : History and Challenges”, *Journal of Family and Economic Issues*, Vol.31, 2010.7, pp.280-296

* 陸路・石田成則「食品業界における望ましい品質管理のあり方」『保険研究』62集、2010年8月、213-250頁

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

* 石田成則「金融A D Rが市場に与える影響」日本保険学会（於 早稲田大学）、2010年10月27日

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

* 中田範夫「第8章 原価管理と標準原価計算」西村明・小野博則・大下丈平編著『ベーシック原価計算』中央経済社、2010年、126-142頁

* 城下賢吾「ポートフォリオマネジメント」榊原ほか編著『行動ファイナンス』中央経済社、2010年、161-178頁

* 石田成則「保険給付の履行期と審査体制のあり方」山下友信・米山高生編『保険法解説』有斐閣、2010年3月、498-514頁

○プロジェクト名

東アジアにおけるグローバリゼーションと格差社会

○研究組織

研究代表者：横田伸子

研究分担者：塚田広人，浜島清史，渡辺幹雄，横田尚俊，辻正二

○研究の概要と結果

本プロジェクトは、上記テーマを軸に各研究者が各人の研究関心にそって研究を進める緩やかな共同研究組織である。従って、メンバーそれぞれの研究概要と結果を掲げる。

〈研究の概要〉

(横田伸子)

韓国における労働力の非正規化の実態について、統計分析と設問調査を実施した。

(塚田広人)

1. 上記テーマに関する文献を収集し、検討した。

2. 上記テーマに関する国際学術フォーラムを開催した。

(渡辺幹雄)

人間社会に存するさまざまな格差について、本来あってはならない格差のみならず、本来あるべき格差について論究を進めている。すでにJ・ロールズが喝破したように、いっさいの格差が否定されるとすれば、われわれの社会の組織化は不可能であり、そうであるとすれば、正当化される格差についての研究と分析が不可欠である。そのために、格差を是認すべきファクターとし

て何がありうるのかを、古代ギリシャやローマ、あるいは中世キリスト教社会、さらに「四書五経」にさかのぼって考究している。かかる古代・中世の格差論を近代以降の現代的格差論と突きあわせることを通じて、たんに一過性のものにとどまらない、裾野の広い格差論を展開できると期待している。

(浜島清史)

主に東アジアにおける福祉体制と労働市場及び社会階層論等の視点から、シンガポールにおける福祉体制ならびに「格差社会」の実態を、資料・文献収集及び現地視察を通して、構造的に把握しようとした。

(横田尚俊)

都市の急傾斜市街地(斜面都市)における地域社会および住民生活の現状とまちづくりの取り組みについて、今年度は長崎市十善寺地区と尾道市土堂地区(いずれも旧市街地の一部)を対象に、行政担当者および地元住民組織・NPOのリーダーに聞き取り調査を実施したほか、補足的に、斜面市街地の防災対策という観点から、2005年の福岡県西方沖地震により斜面市街地が壊滅的な被害を受け、その後大規模な復興事業を行った福岡市玄界島でも聞き取り調査を実施した。

(結果)

(横田伸子)

韓国の労働力の非正規化は、先進国型の正規労働者を非正規労働者に置き換えるという様態だけでなく、発展途上国における非公式部門と共通する性格を持つ部分(=社会的脆弱階層)が大きいことがわかった。さらに、これら社会的脆弱階層の多くは女性によって占められ、顕著なジェンダー構造が見られることがわかった。

(塚田広人)

日本の子供の貧困に関する考察を行い、子どもの貧困と格差に関する重要な論点として「なぜ、どこまで子供の貧困が問題となるのか」を明確にする必要があった。それを考察するにあたり、社会成員の感じ方が重要であり、そこでは友愛性のあり方が重要な要素となることを結論として導き出した。

上記フォーラムで東アジアの格差状況について学び、それをもとに、現在、社会システム論の視点から日韓中の格差問題をどのように考察すべきかについての考えをまとめている。

(渡辺幹雄)

東西の古典的文献を読み解くための基本的な文献の準備に迫られた。具体的には、古典ギリシャ語・ラテン語や中国の古文獻のための文法書や辞書を整備することに努めた。長足の進展は期待しえないが、これによって、格差をめぐる東西古典思想の比較研究が可能になり、たんに現代的な視野に拘束されない格差論の展望が開けつつある。とりわけ、正義にかなう格差にかんする東西両思想の交差は、格差についての普遍的な地平や問題意識の存在を示唆しており、自身の研究にとって啓発的な発見であった。今後は早い時期に、この成果を論考として結実させたいと考えている。

(浜島清史)

シンガポールでは、老人ホームが大規模な病院があるところに産業集積するかのよう施設も地域的に集中している。これは日本と同じだが、シンガポールでは、同じ建物の別の階に異なる

施設が並立してあり、国家による強い統制を窺わせるものである（実際、政府によって移動させられたと聞いた）。また高齢者の居住が多い地域と、施設の多い地域も重なっているようである。社会福祉が地域への権限委譲を求められていく流れの中で、シンガポールや日本においても、地域ごと地方自治体毎の福祉施設の研究が必要である。

（横田尚俊）

- 1 長崎市においても尾道市においても、急傾斜市街地の再生や住民生活の維持に向けた施策が展開されている。長崎市においては道路拡幅や生活道路（階段部）整備などが中心であるのに対して、尾道市においては空き家バンクを中心とした空き家再生と町並み景観保全が施策の核となっており、中心施策の内容・手法に相違が見られる。
- 2 長崎市においては、住民組織としてまちづくり協議会が結成され、行政と協議を行いながら地域の抱える諸課題の解決に向けて取り組んでいる。これに対して、尾道市の場合には、NPOが空き家バンク事業の担い手となり、空き家再生への意欲的な取り組みを進めており、対応の核となる住民組織にも違いが見られる。

○研究成果の一覧

- *塚田広人、「阿部彩氏の子供の貧困研究に寄せて - 「貧困はなぜ問題か」についての一考察 -」、『山口経済学雑誌』、第59巻第1・2号、2010年7月発行、1-35ページ。
- *浜島清史「第9章 シンガポール—国家の統制とミニマム名企業保障」末廣昭編（2010）『東アジア福祉システムの展望』ミネルヴァ書房、所収。pp.281-312。

○プロジェクト名

東アジアの教育における現代的課題の探求と検討

○研究組織

研究代表者：福田隆真

研究分担者：葛崎偉、藤原マリ子、名島潤慈、西村正登、有元光彦、石井由理、森下徹

研究協力者：張雅晴、西村修子、山根望、河合可南子

○研究の概要と結果

本プロジェクトは、東アジアの教育における現代的な課題の探求と検討を、教育課程、教科内容、比較教育、道徳教育、心理学、情報教育の分野から調査研究を行っている。

教育課程の分野から東アジアの現状を見ると、我が国は2008年に小学校、中学校の教育課程の改訂が行われ2011年に完全実施の予定である。主な特徴としては、言語活動の充実、理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、道徳教育の充実、体験活動の充実、小学校高学年への外国語活動の導入である。こうした、教育課程の方針に基づいて、本プロジェクトでは、上記の各分野での現代的課題を探求し、具体的事例を抽出して問題の解決に努めた。

さらに教育課程レベルでの東アジア地域での現状は以下である。中国では2001年の教育課程の改訂に伴い、従前の知識、技術の注入教育から児童生徒の資質向上のために素質教育が導入され、

創造性育成の方向へと変容してきている。小学校、中学校が9年一貫の教育課程となり、総合化の傾向にある。これらには問題も浮上してきており、2010年には国家教育発展綱要として教育全体の見直しが検討され始めた。

台湾においても9年一貫の教育課程を2000年から実施している。台湾での改訂の特徴は、教科の学習を統合し学習領域としたことである。教育内容を統合的・総合的に扱うことにより、創造力、主体性を育むことを目的としている。ここでもまた、統合的な教育の実施には複雑な問題が浮上してきており、台湾も2010年7月には教育課程の改革が検討され始めた。

また、韓国では1997年に第7次教育課程が改訂され、2007年には一部改訂が行われた。教育課程の特徴としては、環境問題の重視や伝統文化と歴史の重視があげられる。

このように東アジア地域は、現在、教育課程の転換期にあるといえる。そうした状況から、教科内容の研究では地域の特徴が顕著となるが、教育方法、情報教育などにおいては共通項や汎用性を見ることができる。

○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- * 福田隆眞、視覚言語によるマレーシア美術教育について、基礎造形学会論文集、18号、2010年3月、39-46
- * 石井由理、(2010) “Musical tradition and culture in policy and reality: a case study in Yamaguchi prefecture” *Journal of East Asian Studies* no. 8, pp. 165-179.
- * 石井由理、(2009) 「イングランド・ナショナル・カリキュラムとEU『生涯学習のためのキー・コンピテンス』に見られる『市民』の再定義の試み」『山口大学教育学部研究論叢』59巻第3部、1-12頁。
- * 袁，葛，成富：“Moodleを用いた中国人学習者向けの日本語4級単語学習システムの構築”，コンピュータ&エデュケーション，Vol.27，pp.73-76（Dec.5.2009）
- * Z.Ding, Q.W.Ge and J.Hu: “Fuzzy Timed Petri Nets and the Performance Analysis”, *Information*, Vol.12, No.5, pp.1137-1156 (2009)
- * Yoshimasa Miwa, Chen Li, Q.W.Ge, Hiroshi Matsuno and Satoru Miyano “On determining firing delay time of transitions for Petri net based signaling pathways by introducing stochastic decision rules”, *InSilicoBiol.*, 10,0004 (2010).
- * 西村正登、「アメリカ道徳教育三大潮流の比較研究」東アジア研究第8号
- * 名島潤慈 (2009) ロールシャッハテストにおけるクロッパー法の解釈. 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 28, 131-139.
- * 名島潤慈 (2009) ある自閉症者の夢分析—Donna Williamsの見た子猫の夢の検討. 山口大学教育学部研究論叢, 59, 第3部, 253-260.
- * 森下徹「尾道の仲背と仲間」『お茶の水女子大学比較日本学教育センター年報』第6巻、2010年5月6日
- * 有元光彦、「熊本県本土西部方言の動詞テ形における形態音韻現象」『研究論叢（山口大学教育学部）』第59巻・第1部，平成22年1月，pp.35-52（単著）

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

略

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

- * 名島潤慈（2009）夢と浄土教—善導・智光・空也・源信・法然・親鸞・一遍の夢分析. 風間書房.
- * 名島潤慈（2009）臨床場面における夢の利用（オンデマンド版）. 誠信書房.
- * 藤原マリ子「俳諧における切字の機能と構造」（「俳句教養講座」第2巻、角川学芸出版、片山由美子他編、pp38-50、2009.11）
- * 藤原マリ子「尾形氏の一書 奥の細道評釈」（「俳句研究」76巻4号、pp173、2009.9）
- * 有元光彦、『これが九州方言の底力！』九州方言研究会編、大修館書店、平成21年5月（共著、pp.58-62執筆）
- * 有元光彦、『都道府県別 全国方言辞典』佐藤亮一編、三省堂、平成21年8月